

第16回首都圏広域地方計画に関する有識者懇談会 議事要旨

日 時：令和7年7月18日(金) 14:00～16:00

場 所：ベルサール九段3階 Room2(WEB 併用)

出席者： (対面参加)家田座長、赤井委員、柴崎委員、布施委員
(Web 参加)大原委員、竹内委員、森下委員

- 議事次第： 1. 開会
2. 議事
 新たな首都圏広域地方計画 中間とりまとめ(案)について
3. その他
 今後の予定
4. 閉会

■事務局からの説明

首都圏広域地方計画の国土交通大臣決定に向けた今後のスケジュールについて説明。

令和6年12月以降に行った事務局の取組を報告。

第15回の有識者懇談会でいただいた意見に対する対応状況と修正後の文案を報告。

首都圏広域地方計画の概要を示した2枚組の資料(以下、概要版)について説明。

■中間とりまとめ(案)本文について

- ・ 観光に関しては、期待以上に意図を拾っていただいた。
- ・ 概要版の各プロジェクトのさし絵に関しては、見づらい印象はあるが、仕方が無いのか。
- ・ 観光産業に求められる変革の記載について、今は生産性が低いから何とかしろと言っても、“わがこと”として響かないのではないかと。一時的な観光客の増減に左右されずに新たな発展モデルの構築を、というニュアンスを加えてほしい。
- ・ 圏域内外との交流・対流拡大に向けた受け入れ環境の整備、情報発信の項目では、第2のふるさとづくりが触れている。しかし、「四方よし」をめざす観光文化プロジェクトでは記載されていない。二拠点居住や関係人口に深く関わるのでコンセプトを残してほしい。

事務局

- ・ 概要版のさし絵については、関係機関と調整させていただきたい。
- ・ 第2のふるさとづくりなど、記載の追加のご提案については、対応を検討したい。
- ・ サプライチェーンについて加筆いただいたのは、それでありがたい。
- ・ 人材育成について加筆いただいたが、社会人の学び直しも大学ではやっぴいこうとしている。そうしたキーワードを入れられないか。

事務局

- ・ 学び直しに関する記載については、追加で書き込めないか検討したい。

- ・ 人材育成、国際交流については、留学だけで良いのか。その他に日本人が海外と交流しやすくなることはないか。
- ・ 交流、外国人が日本に来るだけじゃなくて、日本人が海外と交流しやすいような何か支援を、留学に限らず何かするというと、何か空港とか港の周りの整備みたいな話になる。
- ・ 例えば空港でいうと、羽田空港については書かれているが、成田空港についても、臨空都市として住みやすくなるような記載はあるか。

事務局

- ・ 成田空港には注目しているが、計画の記載については、構成機関と調整した結果、現状の記載になっている。
- ・ 成田空港について、構成機関と協議されたとのことだが、成田国際空港株式会社が色々な取組をされており、羽田と成田が力を合わせてハブとして対抗していこうということだと認識している。物流だけでなく人流の玄関にもなる。人の確保など前向きな明るい話なので、首都圏としてどう扱っていくのかという視点はないか。

事務局

- ・ 本省を含めた行政間での協議の結果、現状の記載となっているが、成田空港について再度確認したい。
- ・ 概要版の1枚目、グリーンメトロポリスの実現プロジェクトについて、目的が食料、エネルギーだけになっているが、「緑豊かな環境を確保」ということを入れられないか。
- ・ 本文に、「環境への配慮はもはや経済と対立するものではなく、経済と両輪である」ということを入れてもらえないか。
- ・ 本文の「多様なみどりの保全・創出」に、具体的な緑の役割として、気温低減効果、雨水貯留浸透、生物多様性の保全、歴史文化の継承、人に安らぎを与える、美しい景観を維持する、CO₂の固定をして大気を浄化する等、重要な役割を果たしていることをどこかに入れてもらえないか。
- ・ 本文の首都圏におけるみどりの現状のところ、担い手不足による耕作放棄地や、荒れた里山、放置された植林などを入れていただけないか。
- ・ 「みどりによるネイチャーポジティブやカーボンニュートラル等への貢献」は日本語として不適切ではないか。やはり言葉だから入れる、というだけでなく、「カーボンニュートラルの〇〇に」などキャッチーになると良い。
- ・ また、「ローカルコモンズ」は、地域共有の緑だけではない。あえてカタカナで入れないといけないものなのか。
- ・ ここは緑の役割をもう少し語っていただきたいし、現在の書き方では伝わりにくい。カタカナ・専門用語が多く、この分野に詳しい人にしかわからないので、わかりやすくしていただきたい。

- ・ カーボンニュートラルについて、首都圏の7割は森林なので、温室効果ガスの吸着面も捉えてこういう貢献ができるような書き方だとわかりやすいのではないかと。

事務局

- ・ 概要版の表現については、ご指摘のとおりであり、検討したい。
- ・ 環境省で「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」という方針をまとめているので、これを基礎として書き込んでいきたい。
- ・ 緑の機能の説明については、もういちど網羅的に見直したい。
- ・ 首都圏におけるみどりの現状についても、確認し、必要があれば書き込んでいきたい。
- ・ カーボンニュートラルの言葉の使い方やカタカナ言葉については、日本語として正しいかどうか確認の上、要すれば改めたい。

- ・ 首都圏計画は空間計画なので、地図を載せてほしい。概要版もそうだが、本文も文字ばかりなので、これから一般の方に分かりやすく打ち出すことを考えると、市民に向けた簡単な絵やコラムを入れて欲しい。

事務局

- ・ 概要版については、協議会構成機関との調整の中で議論したい。
- ・ 現在、本文に図表を入れる調整をしているところ。
- ・ プロジェクト全体構成のイラストも本文へ追記することを検討している。
- ・ 去年のシンポジウムの内容を、コラムとして本文に追加する予定。

- ・ 地図表現については同感だ。地図上に表現することは根本的に重要である。前の方に見開きで、やることが全部書き込まれているような大きい図を入れて欲しい。委員が指摘されたのは、マクロだけでなくもう少し細かいスケールの図も、ということだと思う。

事務局

- ・ 地図表現の必要性の意見は、現行計画の検討時も同じ意見があったが、最終的には各自治体において、首都圏広域地方計画の方向性を理解して、それぞれで地図に落とし込んでほしいという結論になった経緯がある。しかしながら、座長からイメージの提案があったので、事務局で検討してみたい。

■概要版について

- ・ 現状と課題はネガティブな内容なので、例えば外国人観光客が増えている、などもう少しポジティブなことを書けないか。
- ・ 例として、インバウンドで外国人が増えていることは、国際的な関心を持たれていることであるし、都市部に人口が集中しているが、首都圏としてはそれほど人口が減少していないなど、未来に向けた現状が記載されているとよい。

- ・ 日本は物価も安く、食べ物もおいしく安全、など同じ事柄でも書き方をプラスにできないか。

- ・ グリーンメトロポリスの実現プロジェクトについて、できれば美しい緑の写真をいれていただきたい。

事務局

- ・ ポジティブな内容は本文に記載しているが、概要版については、なるべく内容を削ってシンプルにした結果であり、このような作り方にさせていただきたい。
- ・ 各圏域横並びで作成している関係から、申し訳ないが、調整できることは限られる。
- ・ 広域連携プロジェクトの写真等については、調整したい。
- ・ ポジティブなことは本文に書いてあるとのことだが、本文を全部読む人はほぼいない。概要版が一人歩きしてしまうことを考えると、現行計画とどう違うのか、など読んだ人が分かるようなデザインを考えたい。内輪の理屈だけだと、首都圏は暗い、となってしまうかねない。本省から言われているのかもしれないが、事務局で考えてほしい。
- ・ 様々な危機に真剣に対応しなければいけないというのが「危機感の国民的共有に基礎を置き」というところなので、現状は暗いのみだから記述が暗くなるのは当然だ。逆に P2 は明るい。例えば、P1 左側に現状の暗いこと、右側に明るい対応を書けると良い。

事務局

- ・ 概要版は8圏域共通様式で作成しているが、これ以外に説明資料を作ってはいけない、ということではないと思う。プロジェクト全体構成のイラストも入れられていないので、可能な限りの対応を検討したい。
- ・ 今の内容を絞ってA3タテの上下にできないか。
- ・ 概要版をタテにする案は大賛成だ。受け取り手側の視点が大事だ。
- ・ 概要版の災害リスクエリアの重ね合わせ図は、スケール感的に、一般の読者には危機感を感じにくい。
- ・ DX による統合的な国土マネジメント実現プロジェクトについて、DX はデータを活用してどのような変化が起きるのが重要。今の図表では旧来の「デジタル化すれば良い」と受け取られてしまわないか。

事務局

- ・ 災害リスクエリアの重ね合わせ図は再度検討する。
- ・ 概要版の DX による統合的な国土マネジメント実現プロジェクトに関して、活用している事例について、構成機関と再度調整したい。
- ・ 概要版の表現方法について、首都圏として公表する際に本省と調整したい。
- ・ Well-being について、資料で今後の議論を見守るとしているが、6月に公表された、政府の骨

太の方針では具体的に書かれている。4つの危機への対応に共通する基幹的な考え方に様々な危機への対応が書かれているが、これらは Well-being という枠組みの中で捉えることができるので、もう少し考えてほしい。

- ・ Well-being を項目として明示的に立てていただけるとよい。エッセンシャルワーカーの熱中症予防や安全確保、処遇の適正化などに関して、例えば熱中症予防で近くに病院がある、ということなども Well-being だ。
- ・ 箇所によって意味が異なる Well-being が混じっているなので、精査いただきたい。
- ・ Well-being については、「包括的な“ゆたかさ”を追求する価値観への「転換」」に書いてある。
- ・ ここに日本政府のスタンスを記載するなど、ここを改善するというのも1つの手ではないか。
- ・ 脚注に書いて処理する方法もある。

事務局

- ・ Well-being については、6月公表の「骨太の方針」の記載の扱いを含め、改めて考えたい。

■令和6年12月以降の事務局の取組について

- ・ 若者からの意見把握について、何か良かったこと、新しく分かったことはあったのか。結果と、有効だったことを書き込んでほしい。
- ・ 市区町村に対する意見聴取で市区町村から回答が4分の1しかなかったことについて真剣に考える必要がある。計画策定後にフォローアップをするが、関心のない自治体が4分の3もいる中でフォローアップをしても意味がない。計画に書かれていることが、自治体に対して響いていないことを真剣に考えないといけない。これは首都圏だけの問題ではないので、本省を含めて問題提起をして欲しい。
- ・ 各地方の繁栄のためにやっているのに、本当に関心は無いのか、ということが分かるようにして欲しい。
- ・ アンケート調査をすると回答が無い、ということはよくある。従来計画との違いは、客観的に評価できる要素が増えたので、進捗しているか否か、していない場合の要因をレビューできることだ。記述が薄いのは、事務局の関心が低いからなのか、理解度が浅いからか。具体化を担う組織体制については、最初にデータ発掘、そしてベストプラクティスづくり、自治体とのコミュニケーションだ。内閣府が整備している RESAS も、使われていない項目は廃止されている。自主財源が無い自治体向けに、デジタル庁が予算を取って進めている。

事務局

- ・ 若者からの意見把握については、結果を本文へ反映したい。
- ・ 首都圏独自の市区町村に対する意見聴取の結果は、10年前の現行計画の意見聴取時とあまり変わらない意見数を得た。市区町村の関心を高めるためにも、市区町村が計画のどこに関心があるかを調べたり計画に対してどのくらい「いいね」をもらえるか調べるなどの工夫を何かできないか、法定手続きの計画提案とは別に、首都圏独自に検討したい。

- ・ 計画の評価検証と見直しについて、現行計画ではある意味やりっぱなしだった。都市再生緊急整備地域のモニタリングのように、EBPM について現在ではできる術がある。進捗を把握して、定期的に見直しをするといったことは書けないか。KPI の第1階層、第2階層に相当すると思うので、一考をお願いしたい。
- ・ 概要版にも、フォローアップのことを書けないか。
- ・ 指標を何にするかではなく、まずは精神論として「フォローアップにこそ DX 化を」ということはぜひ書き込んでほしい。

事務局

- ・ 現時点のフォローアップに関する本文の記載が現行計画同様の曖昧な書き方なのはご指摘のとおり。計画の内容をまず固めた上で、評価については政府全体の手法を使っていくことについて、現行計画から一歩進んだ決意が分かるような文章としていきたい。

■今後の予定

事務局

- ・ 次回の懇談会については、9月頃を予定しており、あらためて事務局より連絡する。
- ・ 議事概要は、後日関東地方整備局のホームページで公表する。

以上